

# 三豊市の

# 新たなバイオマス産業(5)

## 新

### 実証試験の実施

「固形燃料化方式(RPF)」の概要は、家庭から出された燃えるごみと有機廃棄物、木くずなどを破砕・混合し、トンネル型の発酵槽の中で約20日間程度好気性の発酵を行います。その発酵熱によって廃プラなどを乾燥させて固形燃料の原料とし、生ごみは分解させて発酵有機物とするもので、ヨーロッパで普及している方式です。

設備は負圧化(外気より建物内の気圧を下げる)された建物の中に置いて臭気が外に出ないようにし、外気との循環は脱臭フィルターを通して臭気対策を行います。水は発酵熱により水蒸気となって放出されるため処理水が発生せず、設備費についても大きなプラント建設が不要となっています。

現在、提案者の工場において実証試験を実施しており、市では、地元の大学などに委託して、実証試験の結果を分析するなど、技術的検証業務を行っています。

### これから

平成25年3月31日をもって現在のクリーンセンターの役目が終了

### 「みんなでつくるふるさと三豊」

“ごみはすべて資源である”これは単なる気合のようなものではありません。目標なのです。循環型社会の構築は三豊市のまちづくりの目標であり、資源化率を向上させる、しかも最小の経費で実現するための目標です。

三豊市の次期ごみ処理方式の選定は、現在、このまちづくりの方針に沿う方式を求めての検証活動を行っています。今後は、この検証活動から得られた結果を踏まえて、具体的な処理方式を選択し、市民の皆さんにご説明することになります。

このまちづくりの目標を達成するためには、具体的な計画と取り組みが必要ですが、市民の皆さん一人ひとりの参加が欠かせません。

### バイオマスタウン構想での取り組み

市では、家庭から出される生ごみはバイオマスであると捉え「バイオマスタウン構想」により、資源を循環させる方式による事業展開を考えています。

また、これからの行政施策は、官が丸抱えして行うのではなく「民間でできることは民間で」という考え方をもち、行政はそのサポート役として、産業振興・地域振興・雇用の拡大など、総合的なまちづくりとして取り組むことが必要です。ごみ処理についても、いわゆる「ごみ処理ではなく「新しい産業と雇用の創出」という視点を持ち、ごみを資源として循環させるという理念と、最も合理的に処理を行う」というコストとの両面から検討する必要がありますと考えています。

### 技術は民にある

次期ごみ処理施設に求められる条件は、悪臭を外に漏らさない臭気対策の徹底、ごみを処理した際の処理水の排出を最小限に抑制すること、また、市財政の健全化に逆行しないよう施設建設費用と維

持管理費用を最小化することなどが代表的なものです。その実現手法については、これらごみ処理施設の建設や施設の維持管理、ごみの資源化などの技術は、民間企業に蓄積されていることから、市の理想を実現できる民間企業の技術や資金の可能性を探り、その取り組みを支援すること、民間活力を最大限に導入し、地域産業の育成・振興を図ることとしています。

### 民間企業からの提案公募

このため、昨年12月6日から本年1月11日までの間に、全国の民間企業を対象に「三豊市一般廃棄物処理施設整備事業参加意思確認調査」として公募を行いました。結果7社から提案があり「固形燃料化方式(RPF)」の提案が、応募があった7社中で最も高い得点となり、評価委員会から市長に報告が行われました。

ただこの方式は、現在、国内において実証事例が無いため、提案者が行っている実証試験の内容を検証することを、評価委員会の意見として付記されています。

みんなが理解を深め合う必要があります。

### 【用語解説】

#### バイオマス

政府が定めた「バイオマス・ニッポン総合戦略」では「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石燃料を除いたもの」と定義しています。

#### RPF

古紙や廃プラスチックなどを原料とし、ボイラー等の条件に応じて配合比率を調節して熱量変更が可能です。塩素ガスや硫黄ガスの発生が抑制され、灰化率は石炭の約2分の1程度。化石燃料削減により二酸化炭素の削減が図れる固形燃料です。

### 「コミュニティの力」

ごみ処理も、このような「コミュニティの力に支えられており、ごみを極力出さない生活スタイル、資源化のための分別、合理的な収集のためのカレンダー制などについては、これまでの地道な取り組みにより、相当高いレベルにまで到達しています。

このような市民力や、「コミュニティの力を最大限に活かし、しかも、ごみ処理経費を最小限に抑えられる方式が、市の次期ごみ処理方式に求められていると考えています。しかし、その選択肢は限られており、また、どこにも欠点のない百点満点を取れる方式を見出すことが難しいのも事実です。

ごみ処理施設は、私たちの生活に欠かすことのできない施設で、ふるさとづくりの一つとも言えます。市内のどこかには建設しなければならぬということ、市民



▲RPF燃料  
石炭の代替燃料として製紙会社などで多く使用されています

### ▼問いあわせ

バイオマスタウン推進室  
☎73・3028